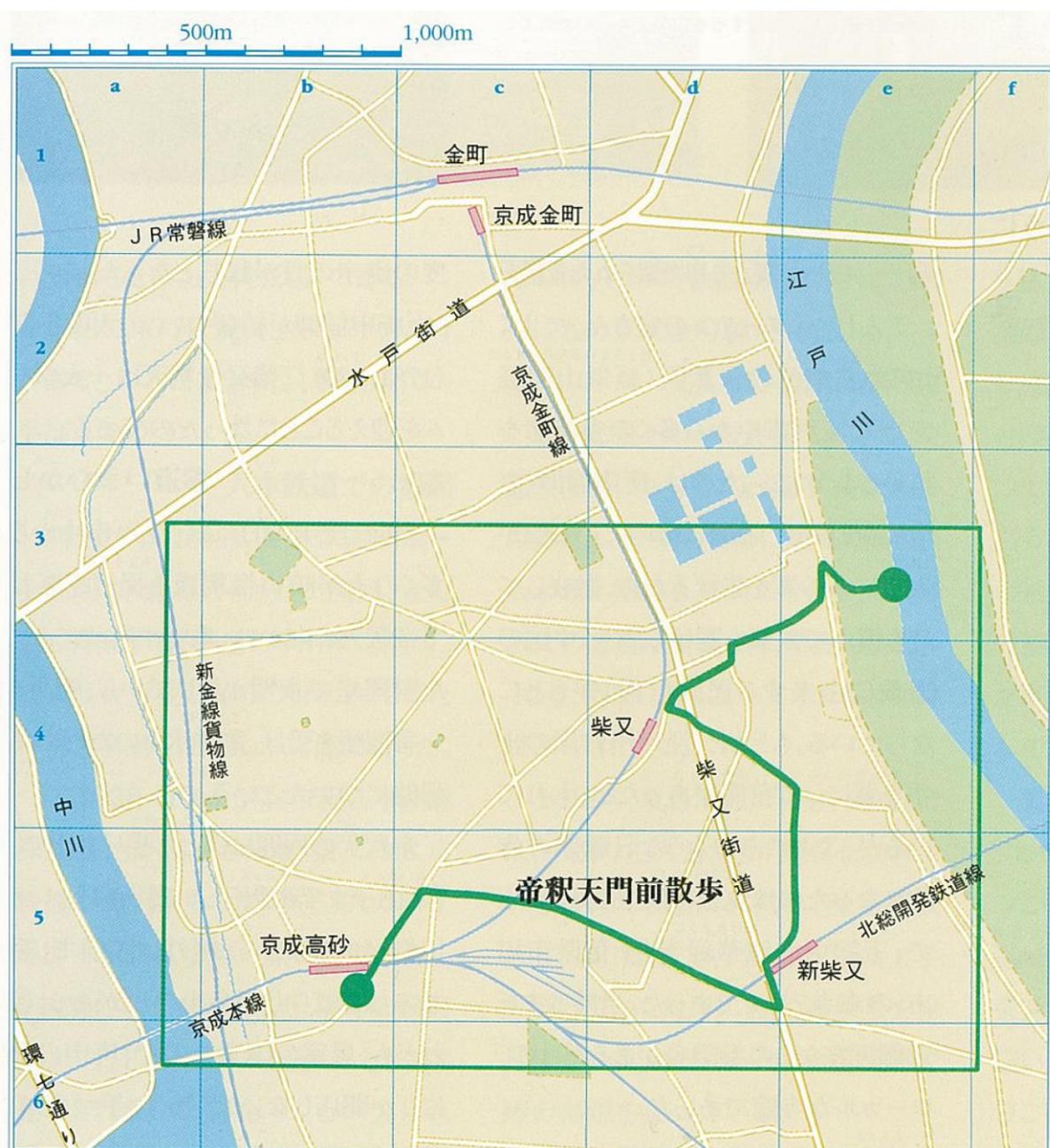


## 19 柴又コース 京成高砂駅—矢切の渡し 3.1km

江戸川の風が育んだ古き良き下町の情緒を味わう

**万**葉集の中では「<sup>かつしか</sup>可都思加」「<sup>かつしか</sup>勝鹿」などと表記されていた葛飾。現在の地名になったのは江戸に入ってからだが、当時は千葉・埼玉の一部も範囲に含まれる農村地帯だった。江戸時代に広まった中国伝来の<sup>こうしん</sup>庚申信仰のおかげで、のどかな柴又帝釈天も庚申の日には多くの参拝客でにぎわった。その日だけ臨時に農家が店を出し、草ダンゴなどを売ったという伝統が、こんにちの帝釈天参道に軒を連ねる店に継承されている。都市化の進む東京にあって、むかしながらの人情味を持ちつづける柴又は、映画『男はつらいよ』の舞台としても知られ、日本国内のみならず海外からも観光客が訪れる。また、都内に唯一のこる渡し舟・矢切の渡しも有名である。



※掲載内容は平成8年3月時点のものです。

